

## Letters to the editor

### 「看護研究における図書室利用方法」 の講義を終えて

社会保険広島市民病院 岡橋 郁子

平成5年2月16日看護部研修部の依頼により「看護研究における図書室利用方法」と題して120余名の参加を得て90分講義した。当図書室は医師・看護婦・co-medicalへの情報提供のみに留まらず、生涯学習を多方面からバックアップしている。今回の講義はこの一環として行った。

講義は90分で、講義項目は、1.看護研究とは 2.文献検索 3.研究計画書 4.調査 5.統計 6.学会発表 7.論文投稿 8.デモンストレーション「学会発表」とした。

資料は、A.「看護研究マニュアル」B.「業績発表の方法—学会発表と論文投稿」C.事例（雑誌「臨床看護」掲載論文）の3点とした。

A.「看護研究マニュアル」は今回の講義のために作ったもので「これに従えば無駄なく看護研究ができますよ」を目標に、平易でしかもチェックポイントを明記して、さらに、各項目毎に引用参考文献を付した。

B.「業績発表の方法」は一昨年臨床研修医のために作ったもので、これは研究そのものではなく、その周辺を記したものである。主な内容は、学会発表用資料作成としてオフセット印刷用抄録原稿タイプ、スライド原稿・ポスターセッションのパネルの作成、論文投稿として図・表・写真の作成や校正の方法などである。

C.臨床看護婦が発表した“胃切除後の体重減少”という論文で、テーマが分かりやすく、しかも原稿が短いものを「事例」とした。その論文は事前に十分な文献調査がなされており、研究方法は体重測定・アンケート調査の両面から行われていた。その結果は表・グラフで示され、さらにグラフには統計処理がなされていた。また、論文構成が明瞭で、さらに各項目、すなわち、はじめに、対象および研究方法、結果、考察、おわりに、謝辞、参考文献がマニュアルどおりの表現であった。

デモンストレーション「学会発表」では、一昨年第9回図書館情報サービス研究大会で発表した「病院図書室と生涯学習—新しい病院図書室サービス」を使った。実験・調査といった研究ではない旨を告げ、参考事項は、1.図書室利用の啓蒙 2.見やすいスライド 3.スライド提示と話す速度とした。

今回の講義は「看護研究」という設定の下に「利用者教育」を行ったもので、司書が医局秘書を兼務し医師の研究のサポートを長年しているという経験を生かして“研究”まで言及した。「看護」の知識なくして「看護研究」を講義するのは冒険であったが、「看護研究」も研究の1つと理解して、1つの試みとして行った。

また、この講義のために、このたび数多くの看護研究に関する文献に目を通したが、それらの多くは、多忙極まる臨床看護婦、特に初めて「看護研究」をするものにとって少しむずかしすぎるように思われた。図書室で看護婦から「看護研究」について、いろいろな質問を受けるが、このことは、これに起因しているのではないかと思われた。

受講者からの声は次のとおりであった。看護研究の流れがよく分かった。1つ1つの項目をシリーズで講義してほしい。見やすく、噛み砕いた説明でよく分かった。「看護研究」の講習を受講した経験を持つ婦長・主任からも好評を得た。

※資料は好評につき近々再編集を予定している。  
ご希望の方はご連絡下さい。

